

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak  
LICENSED PRODUCT

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

肆

二編

長安方忠義傳

13  
1305  
12

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

1305  
12

善知安方忠義傳第二輯卷之四



東都

松亭金水編次

第七回

今長者正祿珠女深雪と娶は  
高野非事理十代童と今も老小託と

此の集會賣買交易の及度けまは土地自地を焼けて敏系華のいもん方ぞるは  
見渡せば波濤渺ととて青天小交を漢とをる遠帆の白雲の翔がぬく延虫がのこ  
其の篝火の暗夜の星とも見えつべく藤治焼て夕煙の煉あるでその旁小住り  
かてこの小住る豪富あり。名と蟹原屋正祿と呼ま。その父の代まをり。  
させる豪家小あふざりうと。正祿の世のいふと。あると。毎小僥倖よく。  
月小副へ日小頼ひ家産大小娘ひて。梢小土庫を建たし。松瓦屋さる。

がう白土小埋ちり。煉堀ねり村木門むらありと。魏ゑいめあり造つくりて。四よきも怕明おそなり  
あまは人ひとこまをひ称なづへて。新深あたらの今長者いまちやうとぞ。渾名あやみをける正祿しやうりくえより  
鳥実とりあて。物の慈悲ひ哀あまさと知り。今いまかく後あの身みとありて。何なにの之これ一ひと  
く。下した奴婢あひ女にね多おほつひて。不足あまなり。身みありたき。或ある時ときの田圃いりあはて  
奴婢あひ等らと。同おなく。草くさを薙ひ。濃の穢けあり。と。この深ふかき之これ出でて。鱗うろこと。あひ運たび分ぶん  
限げんを願ねがへて。身みの勤つとめ怠おそらび。且かつ佛法ぶつぽふ深ふかく。皈依くわいして。菩提ぼだい寺じのいん小  
及および。行脚ぎやうきゃく修しゆの僧そうあまび。拒まり入いりて。米こめ残ざんと。え。或あるひの齋さいと。他  
書まして。号なづけ。すりと。師父しふのど。かく善心ぜんしんあり。のり。のり。のり。生死しやうじ流りゅう轉てんの  
穢け去き。小生せうまと。因果いんぐわの道みち。慈あまさ。あや。その妻つま小百合せうりやくあり。のり。のり。のり。その年としは十じゆと  
三さんよ。短たんてい。と。貞実まことなり。のり。のり。のり。反初はんしよの病びやうより。稍あま小守せうしゆり。ゆ。ま。小  
医療いりやう祈いの待まちのい。ゆ。ゆ。更さらなり。心こころの。あ。限かぎ。残ざんる。こ。る。く。拍はく。あ。け。ま。と。定さだ業ごふ

あやありけん。去年こぞの暮くれ。僅わずか九歳くわいざいの稚見ちゐと。あ。世よの造つくり。止とどめて。音ねを慕たづなく  
世よを辞やへ。正祿しやうりくと。始はり。家族かぞの歎なげと。大おほく。な。く。松まつど。性せうく。販はんらぬ  
冥めい去きの旅たびの貴たかさ。街まちと。免まり。く。と。る。と。と。曉あきら。稚ちゐと。女に見み。吳ご竹ちやくと。  
妻つまとも。児ことも。愛あいと。夏なつも。と。秋あき考あはれ。冬ふゆも。ま。う。く。半はん小せうあり。つ。持もちる。小正せうしやう  
孫まごが業わざと。のり。のり。田でん畠はつ。百ひやく町ちやう。茂しげ。持もちて。是こゝを耕かや。漁いしやうの網あみも。多おほく。不ふ持もち  
と。所ところの備べい。甲か乙おつ。小損せうそん料りやうと。り。て。貸かと。え。ま。と。その家いへ。亦また由よし。濃の作さくと  
抱かかへ。目めと。濃の備べい。小出せうしゆ。申まをす。つ。房ふさと。び。そ。ま。と。獲え物ものと。計かぞへ。生なまめて。醫い術じゆつと。位ゐ  
小漬こづけ。ま。と。乾物けんぶつ。小せうら。つ。法よ必ひつの船ふねの。来き。毎まい小價せういと。定さだめ。沽かり。と。し。  
且かつ米穀まいこく粟あは稗はいまで。目めと。土庫ちこの。入い。繁あはく。む。万まんと。目めと。る。老僕らうぶく武助ぶすけと  
ゆ。りの。あ。ま。と。い。と。律りつ。養やう。る。性せう。の。ま。と。正祿しやうりくが家いへ。亦また在あ。ね。目めの。妻つまの。小百せうひやく  
合あと。造つく。合あ。金銀きんぎん。入い。の。と。ま。ま。も。私せ。あ。く。計かぞ。ら。ひ。け。ま。と。正祿しやうりくの。武助ぶすけと。三

るはりの小忠のひま家より万端と任せをいじり。是より病著めて。果敢るく  
辞せしむる。雨の翼を激まると。おのれ致さし。沈しうと。冷方あけ。武助が  
こゝろ。武久助とのめ。その年。漸く二十の歳。あていと。若年の若ぬのあれど。年  
末父があひこごと。えん習ひをうて。巧者あり。殊ぬ父が奮功ありと。正徳の  
武久助と父武助が跡小居て。家業方るを扱ひする。お年。あひげ。あは。理。発  
ゆて。内外の若もよく。依し。父小倍て。働く。わど。お正徳の。おの。化。ある。秀才と。感。ド。ワ。  
吾兒の。よく。做。おける。か。そ。正徳の。こ。ある。おの。五十。進。お。報。おの。殊。お。佛。法。と。信。ま。う。う。う。妻。が  
この。世。お。在。し。日。お。今日。お。彼。処。の。お。寺。ゆ。て。貴。き。上。人。の。説。法。あり。明。白。の。某。院。ゆ。て。法。延。あり。  
法。共。お。信。め。んと。念。佛。懸。計。の。誘。ひ。お。送。が。ひ。活。業。と。い。ひ。の。う。う。朝。お。暮。る。お。精。進。  
漁。罪。の。いと。深。う。せ。あ。て。き。き。席。小。連。あり。その。罪。障。と。も。穢。の。む。や。と。お。心。お。な。と  
い。の。を。び。お。お。り。い。も。今。い。ち。や。苗。吉。居。お。れ。ま。控。拵。と。懸。ら。ま。う。お。等。し。く。て。さ。

半日の雨もゆき。夫れ免もあき。吳竹の。や。九歳。お。あり。ぬ。ま。お。女。の。お。業。讀。書。も。教。ゆ  
ぐ。頃。あ。ま。ま。妻。が。さ。う。お。花。を。ま。ま。と。信。ひ。お。婢。女。多。く。あ。り。と。い。ひ。と。い。ひ。白。挽  
麦。春。な。と。庶。き。お。業。あ。の。閑。され。と。縫。針。お。も。人。並。お。する。の。の。稀。あ。ま。の。況。や。お  
く。さ。糸。竹。の。業。と。お。れ。ら。の。一。人。お。な。り。是。き。心。苦。し。く。て。奈。何。お。せ。ま。し。と。お。お。い。お。  
冬。の。半。お。る。う。け。ま。い。ぬ。家。業。の。混。雑。と。俗。お。目。類。と。お。む。と。い。ひ。お。の。お。さ。え。  
暮。六。の。こ。て。ゆ。い。ま。ご。に。付。お。実。お。御。の。閑。暇。も。あ。く。正。徳。の。辛。ト。果。る。その。景。勢。  
お。武。久。助。の。一。時。正。徳。お。うち。對。ひ。僕。年。若。く。し。て。か。や。う。の。ゆ。を。ま。ま。の。鳥。解。お。る。  
お。なる。お。れ。ご。ゆ。ゆ。も。冬。の。半。より。年。の。尾。中。の。混。雑。の。年。の。こ。の。ま。ま。の。玄。年。と。い  
内。室。が。檀。お。小。換。下。て。の。の。い。ひ。且。父。武。助。が。年。末。の。功。お。より。て。自。他。混。雑。お。小  
み。う。じ。が。今。年。の。物。お。別。お。する。人。の。兩。個。ま。ま。在。こ。ぬ。お。多。一。入。目。ご。ら。と。い。ひ。あり。湯。者。お。ん  
ど。の。う。の。お。と。雨。と。お。家。業。と。當。む。の。内。室。お。ま。の。信。ひ。ご。ま。う。二。周。も。こ。ゆ。の。

秘ど。家成作。肝要あるが。猶も。と。内室を。迎へぬ。奈何あらん。と。又。山福  
うち。知。女。が。詞。も。最。理。あ。る。こ。と。と。や。五。十。六。あ。り。つ。今。さ。う。後。配。を。娶。る。が。  
多。好。と。や。人。の。後。ら。ん。そ。の。左。も。あ。ま。異。竹。も。と。や。九。歳。あ。く。物。心。を。そ。と。え。ぬ。ま。じ。り  
影。さ。る。母。の。親。と。汚。く。く。何。と。あ。う。家。の。内。の。和。や。小。あ。ま。ま。さ。う。若。死。も。あ  
ら。ば。是。も。ま。ま。心。苦。し。と。種。あ。る。ん。よ。や。万。事。小。不。自。由。あ。る。と。の。あ。り。こ。も。此。小。乳。を  
悩。ま。あ。り。倍。ら。ん。れ。世。を。と。祝。す。小。繼。し。と。母。子。の。睦。ま。い。と。稀。あ。り。と。怒。ら。し。い。の  
る。の。こ。と。と。武。久。助。押。か。下。そ。の。仰。小。ゆ。へ。ど。そ。の。人。の。性。あ。ら。う。に。物。の。左。理。由  
辨。ま。人。知。ら。ぬ。下。さ。の。姑。女。の。顔。な。る。が。多。く。て。口。の。舌。の。指。の。こ。と。と。れ。の。繼。し。と  
母。子。の。隔。も。出。来。て。未。作。ま。ぬ。例。も。あ。ま。ま。と。女。子。の。及。て。く。ち。り。心。切。冷。人。あ。る。が。  
繼。し。と。子。と。の。尚。更。小。大。切。小。の。ま。る。な。ぶ。も。ま。ま。慕。ひ。憎。ま。さ。産。の。親。も。小。倍。る。も  
あ。り。こ。と。と。の。賢。愚。の。境。小。あ。ま。ま。と。世。乃。と。定。規。め。の。あ。ら。じ。若。ま。ま。こ。の。人。の。あ。く。

後。ま。り。猶。も。又。ゆ。ら。り。頓。離。塚。の。あ。ら。ん。と。も。容。易。と。小。ゆ。の。あ。ま。ま。と。の。く。正。縁。武。久  
助。が。白。う。ち。祝。や。や。と。呵。と。笑。ひ。出。し。の。今。こ。小。縁。女。あ。る。の。在。ど。互。小。存。ま。い。と  
つ。い。洋。ふ。こ。も。昔。さ。ら。う。純。ま。し。け。と。若。ま。ま。こ。の。あ。ら。ん。時。免。も。か。う。も。る。す。べ。と。と  
り。の。武。久。助。小。藤。と。進。め。よ。れ。人。あ。ら。ん。免。も。か。う。も。と。作。ま。る。が。実。あ。る。得。が。死。佳  
人。の。ゆ。ぞ。や。元。の。京。都。の。山。所。が。小。奥。勤。ま。る。う。る。が。仔細。あ。つ。て。父。子。俱。こ。身。の。脚。と  
乞。て。柏。清。小。由。縁。と。尋。ね。来。り。住。一。が。父。あ。る。人。と。老。年。あ。て。先。づ。決。碎。せ。り。何  
ま。の。人。小。も。牙。と。焼。て。せ。と。送。く。む。や。と。執。り。ま。ま。と。結。と。お。め。あ。ん。ど。も。あ。り。ゆ。の。あ。く  
柏。清。の。髪。華。あ。れ。ど。も。商人。と。漁。捕。作。の。と。あ。て。る。つ。く。小。京。家。の。奥。と。勤。め。さ。る。  
人。と。の。及。も。合。ひ。誰。娶。ら。ん。と。の。人。あ。る。空。く。月。日。と。送。る。よう。な。り。猶。も。小。此。を。ど  
そ。の。人。の。志。より。ま。ま。奉。動。の。こ。と。曲。小。皮。と。る。が。ゆ。こ。と。分。符。り。の。さ。ま。ら。る。り。系。竹。の  
乃。小。味。く。び。總。計。さ。も。人。小。傍。ま。關。さ。る。と。の。あ。る。あ。れ。あ。る。が。小。幸。あ。て。天。離。都

小呻吟のこゝろに父の波き縁の舟を頼少る兒の果あるに尼小  
 して生涯を安らう小送らんと内郷ある弘福寺の上人小そのよと特小けり  
 上人のその光儀と熟して凡そ女僧法師とありの世小便溺る兒人のうらり  
 然る小かん身年若く容儀も辨き心とてさ尋常小十倍せり。且かん身が相  
 と觀る小不遠小良縁の末と。努むひ止まりねと強てのまきて後方先  
 出家とが止まりつ。そのどの家小在て。坊績計線の業のこすて仕とこ  
 かる遠去小まことあるに掃人のあること幸ひのまびここと娶て後死とあり  
 めのん中の家影のさ。且懐さるのめん為小頼りて由るにとあると。尾小尾を  
 はけと稱徳。頻う小勅めをけきと正徳のまご心決む。殊小三千小足らと皮の  
 年齢も鈎ありを然へあれども京家小勅め。女の小業とよくまると。吹て  
 是も氣りく。ありの。強ても存まぶ。さそが依小うちる。武久助の主人が

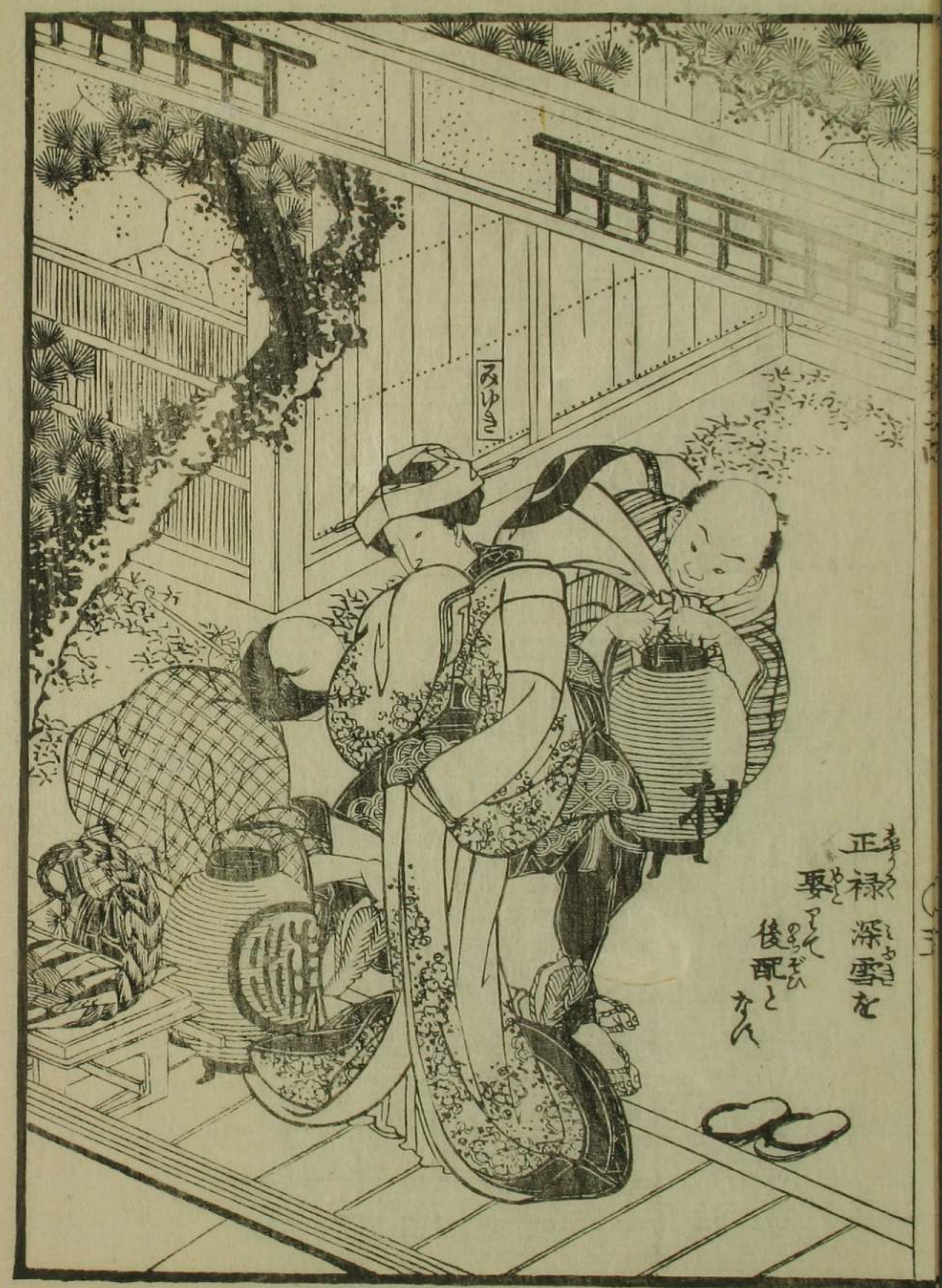
心兩端めて決せきと否ありあゝぬ面持めて強小勅めあり。救ふべくのども。  
 主人といひその身小の。祝小等とと年齢あると。救圓のせんもを礼ありと。おひ  
 ちてき後い。云も出さび目とさける。新浮の莊官浦平の年と耳吹余りふて  
 正徳との信者夥計を小親しく行ふあり。かの人とと頼まめと一時浦平  
 許訪ゆとて。此のこを特じ。浦平異ま。く。ほひて。頻て正徳小修する小。然  
 て。ある。あけきと。その年二十八との。浦との。半の。女兒小。さ。女。ある。れ。べ  
 人の儀ととあるありと。い。浦平ありて。その。理小。似。さ。でも。夫妻の縁の年小。と。さ  
 ぶ。その人品小。ある。さ。曾孫と。さ。さ。年。齡。あ。て。十九。二十の。孫。女。と。抱。て。妻。と。ま。さ。る。小。  
 世間小多々あり。抱きと。人。救。て。儀。ら。び。況。て。定。ま。り。妻。と。る。ま。て。や。惟。く。の  
 是と。勤。む。と。勸。む。る。や。ど。小。正。徳。も。否。あり。あ。ゝ。ぬ。福。舟。の。最。上。の。川。小。あ。ゝ。後。も。  
 水の。乃。方。と。人。の。身。の。末。と。ま。さ。る。ぬ。世。の。あ。ゝ。ひ。是。も。他。生。の。縁。小。あ。ゝ。ん。抱。る。あ。て。も



むく助

平

鶴  
 一  
 心



あゆき

正  
 要  
 後  
 方  
 禄  
 深  
 雪  
 を

その女も心さ又國らとびと久助が左も右も汁らふ下と云う。さき武久助小の事とて信するんといひて  
 呼近づく。此さきありといひけまの武久助大不替びそ寸善尺魔の喻へもあまごの  
 下僕連なる外そ。輝と秘す下と鴨と乞拍法へ切りけり。武久助の同縁ありて  
 この後配と主人小流うその縁ありと索ねる小武久助が父の柿柏縁の候若か許へ  
 縁附けるが良人祥世一人の子小又先ままでよりあるはめとありけまの武久  
 助一人の焼あり。家産をまひて此方へ来り免も角もして表ふとと親小  
 いひけまど焼の一向流の年未と小住るまで。ちや七十小近づく齡い何時  
 またり活んとて良人へ遠せし家と流す。甥の苦勞小ありも。此まをね  
 い小もして小終をささんといふあを武久助も珍方あり折小觸る物と言ふ。こ  
 老と未はふ手えいとまど。隔て住りも届ぐ。さる小縁女の深雪とそは焼が隣小

住つ。えを流く流と来し。あけのうらまはあけの去地小久多修武久助の刀自  
 便介て朝夕親多く交らふ間小の以り小久又後まを慰む人もあけぬりのうら  
 いよく焼刀自と痛つとて信実小のまもる焼の刀自も深雪とびこまあるもの小  
 ちやより。一時武久助小縁組の。とちや信らひの彼人主家の渾家とあけいん  
 小がる小もあけと。奈何小の正孫とあて勧め進せよといふ小より。かこ心と  
 小をあり。さき武久助焼小逢り。か此のよと信まの焼の飲ひ深雪とて信。この  
 順幽小物より。期武久助が主人ある正孫どの縁の。信方いよく義知あり。  
 ちやの奈何小と問かま。深雪のまの武久助小會釈とあて不束ある。この  
 小と厭ひあむの。誘ふ水あ七誘の。河と雲を武久助も。焼も俱こち飲び  
 ささると武久助の浦平小禪合あり。方め指す、けらりて黄た吉日と標こ。こ  
 その年霜降月の下流竟小捨烟とせ密け。此ま正孫の休言とて絶た。あ



夫不倍言。彈明さ物のいひさるるまひ是然わて。賊一うん其竹と念支志と。  
召仕小由情とつけ。物といとも優一けまび心十二分小歡びて。是も全く武久助が。  
主とあら忠義より。出るといよ倍。渠でも重く用ひら。再説月日のご安き。  
流る水より捷く。その年も春を夏まで。夏も果て朝夕の。  
吹来る風の刃小満。葉月の末となりける。年との頃らの時。人杖と曳て衆。  
生と消度。且病人の加持とあす小具。話あふるるあけまび人てまを。教。  
と生佛のどくい罵。高野非事理の源賢大徳。今年も徳を以御まて。  
その不人ありけまび。縁て伝作ある老若男女非事理の存一けるよとて。月との。  
来消引もまび正縁元より。佛乃小飯依る。身あまは源賢と深く信とて。この。  
不へ杖と曳るふとま。口家へ侍ト。食應厚く布施と。教多進せぬま。の。  
源賢もその志と感ト。師檀のどく交りける。是小因と。年例のやく振る。の。

まらその恙あるまを。飲び雪え。渾家深雪と。年出て去年の冬。娶まら。はまを。  
引合せ。教他ひなるる。あぞ源賢大徳のゆも。換らぬ。その志哉感。  
ゆえ。招主人小宣あや。ま。夫乃さ。存る。徳もあまを。厚く。拒絶。わ。ち。を。小。  
こつて。孫。ま。ま。小。就。て。足。下。ま。小。特。と。一。条。あり。是。る。小。童。へ。千。代。童。  
とて。夫。乃。越。中。行。脚。の。砌。で。あ。ま。の。不。人。あ。ま。い。不。幸。と。憐。と。て。救。ひ。と。り。  
は。ま。で。行。脚。あ。ひ。お。い。と。何。怜。童。あ。ま。の。頂。と。刺。て。口。を。芽。子。と。る。ま。ん。の。の。と。ま。ひ。  
し。その。素。性。と。詳。小。さ。は。は。の。父。の。旅。へ。あ。ま。の。性。方。と。あ。ま。の。母。の。老。態。と。ま。ん。の。へ。依。  
の。の。不。忍。と。ま。折。よく。伯。小。環。で。あ。ひ。是。も。徳。国。と。修。行。の。方。扶。け。曳。ま。を。徳。信。小。徳。  
藤。と。重。松。あ。ひ。し。を。ま。ま。と。敢。ま。く。人。手。小。鬼。で。ま。あ。の。け。ま。の。死。あ。んと。せ。と。獨。あ。く。  
師。小。扶。け。ま。ま。と。ま。一。と。も。辱。一。ま。の。の。の。何。の。い。の。の。假。令。四。頂。黒。衣。の。方。と。た。る。  
とも。願。ふ。ま。ま。の。ね。ど。母。と。伯。との。敵。と。り。り。具。の。父。の。生。死。も。ま。ま。の。と。の。身。為。命。小。

あて親不知の泡と消るべし。夫もあてり。師の天恩を必死に救はせし世に存命する  
上々の父が往方のも身給て。母や伯が敵とも撃てり人たる位あり。夫等の所教を  
果せしる人の世を捨るも惜むべし。夫を咬入る人。とまらざる十歳あるか。  
孝心といひ美しむるひてもわら感ぜらる。你がいの布のを理する。その望小仕を  
べ。去るる。とまら出家。殊あ牛敷行脚の元。て。不不仕のとあよ。六相さりの  
て貞纏ひ廻国せんとい便は。越後新深の雁原の師檀の契王は。う。び元本意  
愛深けま。彼処へ体以你と持まん。いと乳健る志のありといふとも。ま。い。をける。  
世が世あふ。父母の懷慕。はるま。る。誓くかの人と持て。成長年十四五  
か。至る。志とも果さる。その初より。よく持と。を。と。云。せ。う。の  
大お教び。口常持。と。ま。ま。と。掌合。と。殊勝。さ。よ。ま。も。隨喜の羅。ひ。泣。夫より  
値。万。世。方。と。行。て。今。日。漸。く。連。來。と。り。足。下。等。天。降。日。と。あ。ふ。る。小。童。を。養。て。

成長のつるが千種佛と違ふの功徳もあらず。信のべし。一。方。の。法。の。人。を。知。奈  
何と向。正。祿。の。異。俊。あ。及。た。び。領。掌。一。世。の。便。る。人。の。あり。とも。仰。ま。る。と。た  
落。余。あ。る。の。昔。語。小。の。説。く。と。あ。い。つ。ふ。も。今。より。昔。家。小。ま。ひ。む。ま。も。成。長。び。そ。の  
才。の。望。小。仕。ま。ま。と。一。と。い。は。深。雪。の。傍。より。この見。え。ゆ。り。や。目。鼻。ま。あ。る。人。あ。る。  
る。く。陋。した。胤。と。へ。え。え。ひ。ひ。ひ。ひ。と。情。あ。は。非。事。理。の。か。ま。せ。小。仰。なく  
と。ま。ま。ま。ま。の。病。命。あ。る。人。を。惠。む。の。大。善。功。徳。と。説。け。る。況。て。非。事。理。の。何。れ。と。副  
あ。の。の。あ。る。と。が。異。作。が。同。胞。とも。あ。ひ。做。と。育。て。け。る。ん。この。長。の。心。易。あ。る。と。と  
夫。持。は。乳。小。流。ひ。一。く。源。賢。由。大。小。教。び。千。代。童。小。り。ち。持。ひ。今。受。ね。う。こと。と  
あ。ま。ま。ま。ま。の。家。の。思。小。なり。夫。持。の。人。の。主。親。と。あ。ひ。朝。夕。仕。ま。ま。母。の。敵。の  
面。体。恰。好。先。以。受。つ。つ。と。あ。ま。ま。行。脚。の。序。小。心。づ。け。ま。れ。と。あ。ま。の。あ。ま。ま。頼。小。汝  
小。お。ま。ま。ま。果。敢。る。は。小。腕。の。容。易。あ。ひ。ま。ま。あ。ま。ま。心。静。小。心。と。候。べ

善和第一輯卷之四



机を並べてお習い。物漬の盆の積りたど。一日も怠る暇ある時の昔流  
の繪冊あることを把出。竹魚は社びとせびらお放て正禪のいへくよまこと  
勢ふりのう。名を十代童と呼あんの何とやん異するありとて千代松と改め  
めん松と竹といのりとも小十年を契る十代の文字自然ある名詮自性未  
榮る様ああん。とん裡小正禪の社びあひて善けり

第八回

浪跡小糸遊危難の遭ふ  
情慾を逞きて淫婦汗夫をひく

再説深雪の此処へ嫁して一年小及べどもその一日も怠る暇あるは變化松のいふも  
更あり。冬裏の薫物と遊り磨きを律とつ。その唱とおむるやどふ奴僕婢女  
あつはと程おの内室の輝輝。まご年若しといへば小郡の似合しり  
らぬ白粉の人目ごるえの京都の川新方小舫らとと交るまごささ僻の

失ぬ少や四巻の人のよままへ小管さるとの風波と極むとくと腹もさう狭く  
はるんの小檀那のそまお氣も付け深雪とこゆるゆ。仕とるのさう近曾の  
後生はひも非小止め垣の狐爪ささるる白い敷のそ瞻望す。今まごの死  
小綱ごても傍痛みのあひま。とんがりのつ應をまよ牝翁すめて牡翁の時さ  
若るとのふ喻えあひの何れかおえの容あに似もつと武久助力称も碎例  
まごを小小す夜も救回あり。とのお一人がむ力達はまごを付とあさあひの  
内室と武久助力称はて情合の有るる動靜隣の痴氣と次痛とや。  
いねみあひあやま。もさつひまごの付るるど互の目つこままのり。必定  
夫小差ひる。若らぬとんあひる。抱むらるるごとおもあつ減多る  
とごいひおごが却てせ方の身の人とまごの今まごでさるおふ喃む力達の  
さるるや檀那のいづれめらまご若も死も眼入らぬとん情あ死とさる

おやと口様るまゝ下僕の平生武久助深雪が方のう人を識る小はけ正  
縁か。と入るる病者さま。かやけきども正縁の曾て史等のことをあは  
只言深雪が色香小泥と。渠が搦搦小悖りと。嗜まぬ酒も夜毎の對面小  
指の太く碑するも。今いあうく。已まより。好めりやうあうぬま。深雪のこまを  
僥倖かて武久助と對面かつ。おのあ後もあるま。碑伏すま。此のこまを  
自他心か小換す内外の者も眼と竊とを社比歩め小主人と掠め。漁獵あや  
日ゆほこのひ米まるとと。賣とと入屋あるま。惟あつて心ゆつひ元來  
豪富のこるれ。目かこのま。さういあう。正縁のこ。心程小弱と。あうか。か。楽  
ま。香せぬ。物の目の高む。仰のこ。こ。二生の体。と。胞生を  
深雪小心と奪い。浮と月日。さうあう。作説分兩頭。小西條高次負が女児  
糸柱の心あ。金井荷助小扱ひ。上野る。草津の。鬼石。へ。らん

とてその夜の終夜山越の捷徑と走ら。既小の夜もぬらる。梢小旭の輝ひ  
法沛の簾へ。二軒あう白亭小酒沽家のあ。と。後。ま。こ。入。て。雲時態  
版る。と。挑。て。兩。個。の。朝。誦。と。後。ま。こ。入。て。雲時態  
この名小負難。而。あ。て。暑。さ。小。結。ぬ。水。無。月。の。半。と。い。と。ど。岩。居。る。あ。の。水。ま。る。雪。の  
あ。の。の。今。い。や。う。く。泳。生。の。中。旬。堅。き。凍。小。道。閉。て。風。も。ま。け。く。肌。膚。と。透  
さん。と。つ。け。て。歩。め。ぬ。人。抱。い。ま。さ。怒。り。振。ぬ。ま。草。津。の。つ。い。と。を。り。昨。夜。の。山。路  
由。容。易。く。ぬ。と。ま。こ。難。而。小。さ。か。る。ん。と。こ。使。る。く。ま。ま。と。め。と。慰。む。れ。糸。時。が  
否。と。よ。辛。い。ぬ。ら。ど。の。昔。勞。苦。患。の。時。の。難。厭。ふ。ま。き。あ。の。ゆ。ね。と。抱。ず。ひ。さ。む。ん  
男。が。苦。辛。心。が。う。く。と。あ。る。り。殊。あ。の。父。と。弟。が。男。の。う。人。の。う。あ。ん。と。後。髪。引。る  
心。地。小。踏。破。て。歩。め。か。い。あ。と。こ。と。却。て。兩。個。の。坊。小。あ。と。史。の。見。非。も。あ。く。女。を。生。れ  
果敢る。と。仰。つ。も。愚。痴。と。知。り。あ。う。と。く。の。涙。ま。ま。ぬ。ん。と。推。あ。ひ。ね。と。ひ。ひ

候とて向て拭ふ暁の潤ひと見えど、壯夫の猛きんも弱し果ての太死  
息と吻ととの縁とてさうとさう。先生の思慮深くも老切小在す。万小可  
も仕損ふ。このあつとさう。殊小里見も致付て後とす。すげ。が。乳。き。の  
あ。と。と。徳。と。在。下。の。わ。ん。が。と。送。り。さ。さ。小。把。て。返。し。て。時。宜。小。より。る。が。ま。と  
再。び。先。生。父。子。の。兄。送。る。す。人。の。さ。る。案。苦。し。あ。ひ。と。慰。め。れ。て。由。系。柱。の  
虫。が。あ。つ。ま。る。父。子。の。あ。ま。不。涙。さ。止。ま。ら。ず。わ。ら。う。此。地。を。渡。世。ま。る。轎。夫。と。ま。え  
二。三。名。動。也。と。入。来。り。酒。三。合。好。と。酒。菜。い。つ。と。早。く。惜。む。と。い。ひ。此。方。と。り  
向。て。わ。り。密。と。点。改。あ。ひ。一。個。の。漢。士。が。腰。を。屈。め。檀。形。の。こ。も。う。法。律。へ。う。あ。ふ。と。え  
後。う。の。の。少。の。暖。さ。を。凍。ま。る。雪。の。解。と。も。深。田。の。早。苗。さ。う。小。足。技。の。泥  
濘。路。處。女。と。ど。歩。り。ま。れ。た。は。便。お。め。さ。び。釐。ま。で。價。と。卑。く。卑。ま。う。さん。と。い。ひ  
荷。助。の。足。と。振。り。年。小。四。五。度。の。往。来。す。る。の。時。の。容。子。の。智。の。殊。小。号。あ。る。味。と。

俾女奉公とせんとして侍ひてゆく。ま。は。便。の。ど。小。業。りの。あ。ず。と。い。ひ。漢。士。の。呵。と。笑。ひ。  
後。う。漢。士。と。あ。い。合。せ。ま。と。呵。と。う。ち。笑。ひ。好。と。内。志。を。人。目。を。た。山。小。号。と。な。と  
引。あ。ふ。と。此。方。の。畑。あ。る。の。種。りの。應。綱。が。出。来。の。う。と。ま。く。一。杯。を。つ。け。う。と  
彼。方。の。床。机。小。田。彦。を。ま。と。ひ。系。柱。の。密。す。小。這。奴。等。の。正。志。く。兎。見。め。て。轎。夫。と。い  
名。の。こ。ろ。あ。ん。今。酒。徳。と。居。る。小。此。方。の。急。ご。て。性。を。よ。け。ま。と。心。お。め。の  
名。ま。と。ま。と。依。語。の。荷。助。の。あ。て。よ。や。兎。見。も。ま。と。を。何。れ。の。と。と。は。仕。出。ん  
在。下。兩。刀。腰。あ。り。い。さ。り。心。お。け。あ。る。性。の。あ。ま。日。の。つ。て。昇。り。ぬ。時。刻。延  
て。い。宜。し。う。と。頼。と。草。鞋。と。履。の。と。い。ひ。ツ。き。が。由。ま。あ。り。支。度。を。り。て。と。ち  
出。ぬ。その。後。影。と。轎。夫。等。の。う。ち。祝。言。と。点。改。あ。ひ。再。び。酒。と。温。め。て。茶。碗  
小。次。を。傾。け。さ。ぬ。か。つ。て。系。柱。と。荷。助。の。二。人。の。と。を。出。て。足。小。任。せ。走。る。り。十四  
五。町。名。所。あ。ら。う。洗。沐。の。難。本。へ。ぞ。醋。か。ま。ぬ。さ。ぬ。と。小。系。柱。の。か。は。

山家小人とあるは常小の家内小居て歩ゆ由別ぬ山阪を星ゆり小喘く  
劇下を渾身ゆ大小勞き殊小足之疼く由て今々七里のこの作と城ん  
との容易く便るにるも之とも松とのも入小松助が心配とせんと  
あふりのうらまぬ酔也。良一里をり歩ゆり小吹し小依り難助老岩  
石左右小連り傳を二尺修りの路隘さ小樹の生茂り苦掛の紐がう小  
蔓纏あひて松柏の梢を埋くまは日の光りを遮りて傳をさく闇宛たもかく  
かあまじとあふをり。不き小肝と冷まの場ありまよその切岸高くて樹の  
根を傳ひをりく小登りゆ所あまは苔滑らう小足に重まき山煙の蒸干と  
あふ人の歩ゆの音小連てまよくと重りる落襟るごとく入るとあまよ  
多花の半生て半死さる心地ら。息さる毎小流肩あり。揮ちるまに極なればかく  
て争うの襟へあうとのあるさぞと自ら心と勵まて測る折る金井荷助の

嗟其やとのひも果は。矢庭小礫と平張伏が糸柱の孩さ惑ひ。さくくあふは  
あふとまき抱へて引起し。犯まら面色蒼青て眼と眸を苦し景物毒ま  
どのまきや流らる積とのりの強く発り。何小まは健てまよあは  
悩むるあて俄の病着のいつるるとぞと乳も轉倒さる注方去るざるをり。  
荷の目ら心下を推へ苦痛を忍びて細さ發うて在下持病小積聚ありて  
年小二度発るとあり。今日も不圖その病ひの強く発り。りのあるまは一向  
業のあよ。あまらる時とのひ折さ生憎めて。さくの水ごゆら。夜るは  
るのあありるる。霎時あまらるる。あまらるる。樹の根小尻うちりて足  
休とあまらるる。あまらるる。あまらるる。あまらるる。あまらるる。あまらるる。  
さく持病とあまらる程もあまらる。あまらる。あまらる。あまらる。あまらる。  
さく。あまらる。あまらる。あまらる。あまらる。あまらる。あまらる。あまらる。

べ。是(こゝ)に敷(ぬ)て居(ゐ)る人(ひと)こそ上(うへ)の御(ご)小(こ)袖(そで)と申(まを)す中(なか)に脱(ぬ)ぎまをて下(くだ)敷(敷)さればお助(おすけ)の  
斤(しん)をばお抱(おこ)せ伏(ふ)拝(が)して吐(つ)息(いき)をさなはさるるの波(なみ)下(くだ)りよとて車(くるま)太(お)ねい侍(ざむらい)され  
あつたの御(ご)斐(ひ)あくも病(やま)弁(べん)却(かえ)てあん何(なに)の死(し)かあ。あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ  
まて款(くわん)息(いき)してまはる侍(ざむらい)の故(こ)意(い)と微(こ)弱(じやく)かくなり心(こゝろ)弱(じやく)なるまのひそ人(ひと)の病(やま)の巻(まき)と  
笑(わら)ひ仰(おほ)せ給(たま)ふべしおあつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ  
や病(やま)の患(わづら)らばお小(こ)疳(か)病(びやう)も仰(おほ)せ給(たま)ふべしおあつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ  
まてあつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ  
お色(いろ)さそもく疾(やま)さるる御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ  
声(こゑ)の波(なみ)内(うち)やぶら系(けい)柱(はしら)の振(ふ)むとて昔(むかし)と昔(むかし)くさの侍(ざむらい)と然(しか)り人(ひと)のあつた  
こそとつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ  
伊(い)兵(べい)おめする眼(め)鏡(が)小(こ)五(ご)厘(りん)も遠(とほ)いび人(ひと)もあつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ

妻(つま)の衣(ぎ)に敷(ぬ)敷(ぬ)てとの波(なみ)ぞ狂(くる)う伊(い)兵(べい)美(み)次(じ)の奴(やつ)等(ら)でいあつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ  
伊(い)兵(べい)と呼(よ)ぶ漢(かん)士(し)こそ頑(がん)七(しち)よく見(み)やれ旅(たび)人(びと)の若(わか)女(め)夫(と)の眼(め)鏡(が)遠(とほ)く  
久(ひさ)妻(つま)の衣(ぎ)に敷(ぬ)敷(ぬ)ての波(なみ)ぞ狂(くる)う伊(い)兵(べい)美(み)次(じ)の奴(やつ)等(ら)でいあつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ  
居(ゐ)る御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ  
はつとと立(た)寄(よ)り疝(せん)疝(せん)の腹(はら)痛(いた)うおと替(か)つて揉(も)で進(ま)せう。處(あひ)女(め)さん  
そこを避(よ)る人(ひと)と肩(かた)へ手(て)をうけ押(お)除(の)る。當(あた)り系(けい)柱(はしら)の者(もの)共(ども)が面(おもて)を祝(いわ)れが薬(ぐすり)の  
酒(さけ)坊(ば)で死(し)見(み)る人(ひと)とおひつる漢(かん)士(し)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ  
生(なま)憎(にく)荷(か)助(すけ)の急(いそ)病(びやう)お取(と)り去(ざ)らまて要(えい)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ  
こそと避(よ)る人(ひと)とおひつる漢(かん)士(し)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ  
系(けい)柱(はしら)が脊(せ)の方(かた)より緊(きん)と抱(かか)りまておとひつる漢(かん)士(し)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ  
君(きみ)とあつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あつたの御(ご)斐(ひ)あ



糸柱の牙を平めて抱きつる身を拂ひんとするやど糸柱も子法三處女よ  
 手割りの世方でも手割く儼さんをも合点死在するの簾の酒坊で眼祭  
 とんと所が黄金花咲貨物と瘦浪人が活の花と瞻望さるる惜いの  
 奪つて勢昌の土地へ活るが大分の黄金玉のすうる。汗掻て僅の賃  
 囉ふより早き早くと商後とて跡追蒐この山路心憎くも必ひる瘦浪人の  
 不憶病氣皇天さるが吾們へ濡る栗のこの賜いご末の處女と引る  
 荷助の姿より悔きさる小齒と切り満面不怒をを合と眼と睜を殘忍无  
 頼の汗滅とも牙の病着小若むともやまらるる筋あふるるべとぞとこち  
 あぐんと牙を起せど苦痛おぬほびまご撞と例もとるて兇兇等の呵こと  
 冷笑ひ一件汝で打殺して女を奪りん積るりうが病氣でさうとるこれ  
 笑為益の殺生とてと命冥加る瘦浪人跡で死ぬとも活るとも筋小

名をとりしひらめ。泥膠あげておぼせ。荷助の悔と勝と断難をうておぼせ。も  
 まご衝あたる積聚の痛さ。嗟といひ刀を抜とるるを朱と沃とる。眸  
 あけて白眼のそお杜の當下お遁とぬ所と覚悟の父が夜踏の漢をよこ  
 典えさる佩副の短刀晃下とひき抜てまをよひて背する類七目鏡を突  
 かまごころや浮雲あると牙と括り右を伸して糸柱が利腕繫と引  
 とん矢度糸柱刀扱てさそ怖れを處女うぬもろる申あひのやのみ。  
 禍ひがあらうもまよひ世の中やまくと。言下より後方なる。西個の轎夫  
 が早ある。後準備を去らん麻徳糸柱で纏は糸柱が悔しけれど女  
 るの甲斐あるさう足揪り後糸柱を纏は法肩のれへ類七伴兵の左右を  
 覆て山崎で飛がぬ糸柱去る。荷助の苦痛のその中あて。いこ心と方せ  
 うが。この時髪髻とてあ法と覚えんを死にのめく存亡更お智るべし。



庚申吉面



遊崎小  
赤遊危難小

その後この條不解べ。粵不新浮の今長者。鮮原の正祿の篤実謹みの老ま  
さども。多不溺るる常人の慣ひ年々耳順に向とて年着く懸藤る。  
皎女子を娶ふまじ。亦る死のの死を志してそれぐ勸め不替まぬ酒も。  
喝の飲むひつ。既不深雪と武久助が痛がりさ不及び内外科ののりもたさ  
ひ知るといども正祿のその愛の眼眩とて。まこと養ふ由あるより。  
その年もくまま中や。ぬ月中旬とるけら。正祿のあふよう。或ひの改  
痛眩暈。小服の力の減るあや。歩むも平者のゆるるす。とい全く逆上の活さ  
あやや申んぞんと功徳ある茶もど用ひても捨め。実中や年老て懸藤る。  
若き女子の愛ととも。美陰枯燥とて病ひと生ひ。と函まあひ詳るるの  
りまざるあ心も若おて。假初不ぬひまて更不怯むともせひ。あお新て  
自ら慕るがぞく。見あまじ。醫師と侍と保苗をさる。不懸藤るといども

初と遠ひ此処等。法里不名函のあひ。さまじ。正祿の目と重祿。後茶とまど  
功徳あり。わとく辛ト。折る。社官浦卒が彷彿あり。四方八方の物。後且正  
祿が病のさぬと等と。せり。あんがのま。知りあひ。や。當國蒲原縣  
足の郷の跡。度の林。藤る。が。玄羊の表のひ。あやあり。ん。不計温泉の湧出  
これ不備する。りの田。カ女。てい。び。痼疾。沉疴の。治。り。ご。死。も。極。め。て。使。癒。の。功。あり  
とて。當國の。い。か。あ。ぬ。む。び。近。玉。代。玉。の。老。ま。ま。も。集。會。の。り。湯。宿。も。延。べ。娘。ひ  
たう。こ。た。う。ね。お。り。湯。宿。あ。の。多。よ。死。女。子。と。ね。多。抱。へ。て。旅。客。と。慰。む。こ。ま。ご。の  
湯。女。と。呼。ぶ。と。唱。ぬ。お。等。の。の。す。と。ご。ま。も。痼。疾。の。病。り。ま。じ。性。を。沐。ん。と  
あ。ん。ど。も。一。人。性。ん。の。辭。悒。て。今。ま。ま。の。默。止。と。り。若。あ。ん。が。性。め。の。徳。俱。お。あ。り。と。  
と。は。て。正。祿。の。貞。次。の。い。ち。も。精。足。の。遷。泉。の。活。流。風。不。吹。一。が。天。の。の。功。徳。あり。と。も  
あ。う。ま。ず。さ。の。と。お。を。ま。さ。ら。お。の。り。び。を。ま。さ。ら。お。ひ。ま。ご。ま。や。と。い。ふ。小。深。雪。も。侍。あり。

その誰をぬめぬも有り。殊に臥痛血暈の即切の如きとぞ人の浦平の由  
 性あり是れ病を踏連り。故にありひまの人も未月の誕生をて田とうちを  
 頃小ありぬ今こそゆまのよれあると花のいらく。秀とぞ摺枝のありと変  
 るまの。その心遊するをとうちを笑ひ浦平。今二十年も老く。油ありは  
 さりあり。あたる主人もむも。枯木も等。さ。瘦翁の女のあり。あ。れ。を。の。と。  
 菌茎あり。何とぞ。笑ひ。奥。で。飯。を。り。か。て。今。長。老。正。徳。の。い。ゆ。特。定。の。温。泉。を  
 流人と供人一兩個を後へて。八月二十日。なるの。は。り。らん。家。より。義。瑞。の。武。久。助。と。深  
 雪。お。よ。く。委。ね。わ。浦。平。と。俱。お。も。は。る。こ。お。終。て。武。久。助。と。深。雪。の。憚。る。人。も。あ  
 律。小。假。詫。夜。昼。の。差。あ。も。あ。び。酒。と。飲。て。世。の。娯。楽。を。そ。け。け。る。が。一。時。武。久  
 助。の。髪。を。低。め。不。測。の。縁。小。較。系。が。そ。て。り。る。中。と。な。り。い。い。と。も。花。と  
 り。び。え。お。ひ。廻。せ。空。忍。し。き。ちん。男。の。主人。の内。室。ある。と。竊。む。この。男。の。罪。科

の四重五逆とやんあて。流む。影。の。あ。ら。さ。る。ぐ。その。も。人。ども。今。更。お。り。や。由。定。の。扱。は  
 とも。お。ひ。切。と。る。あ。ら。さ。る。ぐ。と。い。び。深。雪。の。憐。れ。と。を。よ。せ。落。情。と。と。を。受。り。の。う。み。  
 ま。ご。この。家。へ。来。ぬ。お。あり。密。お。お。ひ。その。派。衣。汚。黄。お。あ。ら。ぬ。心。と。お。の。の。う。う  
 恥。う。と。こ。ま。と。ま。移。て。下。級。の。算。と。し。と。と。う。件。せ。り。も。依。の。深。と。誠。の。海。千。尋。の。底  
 の。底。ま。も。損。ら。せ。ぬ。お。あり。と。今。ま。で。お。ひ。定。め。も。已。が。お。る。心。あり。お。お。の。の。あ。死  
 身。の。深。を。お。の。ぬ。人。と。お。の。の。水。小。粒。かく。文。ま。小。似。て。果。敢。あ。た。り。の。お。は。り。う。と。と  
 怨。心。と。ら。ま。て。武。久。助。の。お。ひ。の。あ。ら。ぬ。その。死。心。言。わ。の。は。つ。あ。く。心。は。ぐ。と。と。ま。せ。も  
 放。だ。心。め。ぬ。と。い。え。る。と。こ。も。心。は。秘。密。悔。の。主。の。渾。ある。と。今。日。も。指。を。知。り。する  
 ぞ。く。四。重。五。逆。の。罪。深。く。流。む。影。を。し。の。い。ま。で。女。子の。悲。を。傷。う。ま。る。秘。も。お。お。が  
 ん。小。杖。風。の。と。や。こ。初。て。下。級。系。後。ろ。か。多。の。つ。く。う。か。る。云。葉。と。お。お。た。果。の。冬  
 樹。の。花。を。お。る。さ。も。お。の。継。ぐ。あ。ら。ぬ。音。傳。の。と。ま。小。梓。か。を。り。病。め。枕。う。の。と。時。た。あ。ら



出まは武久助の深雪お討ひ声と低めて。兩個が中とこのひん人も大方おびつて容子。  
 さるお小婢女等おの世をうりの鼻茶まといふほどは南と堅くまのまぶ心のあく。  
 むふりのうう今とえ来たる兩個の推兒等女のふい殊更口伶俐あられぬことと主。  
 人のちで云出ひもあたるうび。よろしく心と着あんとといふ深雪がそのおれより。  
 も心つてこまごま正徳刀柄と具行が。討ひ居るとまの傍と離まび加之今のと除。  
 他のおおつけて威と示しあくるまごの何怜けまごも了得の推兒おれと做。  
 してうがう人のうらみとどいらひおと。抱のい人少くも油断のあぶおん心と。  
 若あんと兩個密々何うさう時移るまを後をあひ点次あひてを居ら。  
 けは

善知鳥安方忠義傳第二輯卷之四終

